

第6回調査分析部会 議事録

1. 日時：平成25年9月10日（火） 16:00-17:59

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、青木部会長代理、磯部委員、城山委員、橋本委員、渡邊委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、深井宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

(3) 説明者

独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）	吉村調査国際部長 光盛調査分析課長
一般社団法人日本航空宇宙工業会（SJAC）	宇治技術部長

4. 議事録

(1) ロシア等の宇宙政策について

JAXAから資料1について説明を行った。説明の概要は以下のとおり。

- ・ロシアで本年4月に策定された長期的な開発基本方針において、打ち上げを確実に行うための方策の確立、通信・放送・航行測位サービスの継続的な提供、地球観測及び宇宙天気データ配布の効率化、宇宙産業分野のロシアのシェア拡大等が示された。
- ・「2013年-2020年までのロシア連邦宇宙プログラム」において、宇宙産業界の管理体制を改善して、防衛力・安全保障の確保し、経済を発展させ、宇宙探査プロジェクトを推進していくことが示された。
- ・ロシアの宇宙開発は、ロシア連邦宇宙庁（FSA, Roskosmos）及びその傘下の各企業が主導し、宇宙科学の分野でロシア科学アカデミーが協力する体制となっている。
- ・現在、ロシア宇宙産業界では専門家の高齢化、施設・設備の老朽化、産業基盤（特に電子部門）の脆弱さが指摘されており、産業界の再編、統合化の動きが出ている。
- ・ロシアは、日本を含む19以上の国・機関との間で宇宙協力協定を締結しており、有人宇宙活動及び輸送システム等の得意分野を中心に国際協力を実施している。
- ・ウクライナは、ウクライナ国立宇宙機関(SSAU)及び宇宙活動委員会を中心に、旧ソ連から引き継いだ施設をもとに、ロケット、宇宙機器の製造を中心とした宇宙活動を実施している。
- ・カザフスタンは、カザフスタン宇宙庁（Kazcosmos）を中心に、宇宙活動を実施している。ロシアと共同でのバイコヌール宇宙基地のバイテレク射点建設プロジェクト、ゼニット及びドニエプルロケット等の商業打ち上げサービス等を推進している。

SJACから資料2について説明を行った。説明の概要は以下のとおり。

- ・ロシアの宇宙産業界はRoskosmosの傘下に企業群が組織されている状況。1990年代前半から民営化が始まり、1990年代後半から統合が始まり、そして2000年代に入り統合が深化している。
- ・本年7月のプロトンロケットの事故を受け、本年9月ロゴジン副首相は、軍事部門以外のロシアの全宇宙関連企業・機関を1年以内に単一の組織に統合し、単一の国営機関「統一ロケット・宇宙会社」を創設するとの発表をした。統合が実施されるかどうか注視する必要がある。
- ・ロシアではフルニチェフ社が、プロトンロケット、ロコットロケットを製造し、欧米の会社との合弁会社が打ち上げサービスを提供している。フルニチェフ社とロッキード・マーティン社との合弁会社ILS社がプロトンロケット、フルニチェフ社とEADS社との合弁会社ユーロコット社がロコットロケットの打ち上げサービスを提供。
- ・ウクライナではユージノイエ&POユズマッシュ社がドニエプルロケット、Zenitロケットを製造している。ドニエプルロケットは、ロシアとユージノイエ&POユズマッシュ社の合弁によるISCコスモトラス社が打ち上げサービスを提供。
- ・米国のボーイング社、ロシアのエネルギア社、ノルウェーのアーカー・クバーナー社、ウクライナのユージノイエ&POユズマッシュ社の4か国の国際合弁会社Sea Launch社が、海上からのロケット打ち上げサービスを提供している。

説明の後、以下のようなやりとりがあった。

- ロシアの宇宙産業界は低賃金が原因で若年層が参入せず、技術力の低下、品質管理の低下を招いており、これが打ち上げ失敗につながっている。(中須賀部会長)
- 低賃金に起因した問題はウクライナでも同様か。(城山委員)
- ウクライナでも同様。ウクライナでは、良質なロケットを製造・保有している一方、自らオペレートする能力が不足しているため、海外との連携の中でロケットを打ち上げている。サイクロン-4をブラジルと共同で打ち上げようとしているのはこの現れである。ウクライナは、予算規模が小さく自ら大規模投資を行うのが困難であり海外連携を模索している。(中須賀部会長)
- 長期的な開発基本方針によりロシアは再び躍進するか、JAXAの所感如何。(渡邊委員)
- 長期的な趨勢はよくわからない。ロシアでは、近年予算が順調に増加してきたが、今後この増加傾向が長期的に続く保証はなく、注視する必要がある。(JAXA 光盛課長)

(2) その他

委員の調査分析レポートのテーマとして、衛星周波数獲得に関する国際動向（青木委員）、宇宙科学・探査（磯部委員）、主要国の宇宙政策比較および宇宙政策と海洋政策等関連分野との比較・相互関係（城山委員）に関するものが提示された。

また、事務局より、次回の開催については調整中との旨連絡があった。

以 上